

地域脱炭素化に向けた大学における環境人材育成の検討会

検討会の対象スコープ

- 地域脱炭素化をけん引する傑出した人材のみならず、予備軍を含めた人材層の形成・拡充・確保が課題
- 持続可能な地域づくりのため、裾野拡大や多様性ある人材が必要

大学の役割

- 環境ビジネスは総合芸術、分野横断的な学びが有益
- 地域における理論(Ri)と対話(Ta)、実践(Ji) — リタジモデルの促進
- 博士号は地域社会では与信力、社会的責任も伴う

大学と地域・企業との連携

- PBLは時間と労力が必要、実践例の共有や仕組み作りが重要
- 教員個人の熱意や研究室単位の連携は容易だが、大学全体や地域・産業界との連携システム化が必要
- 関連分野の最新情報を学ぶ機会が教職員にも必要

今後の方向性

- PBL等の学習成果の可視化が重要
- 連携の仕組み強化と継続的な人材育成を目指す
- 大学・地域・産業界の協働による実践的な学びの場の創出